



発達障がい児・者がより良い社会生活を送るために、早期発見から、就学前、就学中、卒業後のそれぞれのライフステージにおける支援がつながっていくことがとても大切です。その支援のひとつに薬物療法があります。薬物療法は発達障がい児・者への支援の重要な選択肢の一つですが、全員に実施されるわけではなく、限界や課題もあります。

今回は、発達障がい児・者への薬物療法にはどのような薬が使用されるのか、またどのような人に、どのような効果があるのか医療者側から情報提供を行い、支援者との意見交換を行いたいと思います。

日時：令和3年11月21日（日）14:00～16:30
会場：Zoomによるオンライン配信（要事前申し込み）

～発達障害児・者への薬物療法の役割を考える～

開会あいさつ

森 昭憲氏

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

第1部 事例紹介（14:05～14:45）

I. 薬物療法を行ったADHD男児～薬物療法を開始するまでに焦点をあてて～

宮 一志氏

富山大学人間発達科学部

II. 高校生事例（仮）

榎戸 芙佐子氏 医療法人社団 和敬会 谷野呉山病院

第2部 発達障害児・者への薬のはじめ時、やめ時（14:50～16:00）

森 昭憲氏

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

質疑応答（16:00～16:30）

発表者・参加者とのディスカッション

閉会・まとめ 滝澤 昇氏 独立行政法人国立病院機構 富山病院

司会：山下委希子氏 富山県公認心理師協会

参加対象：発達障がい児・者の支援者（公的民間は問いませんが守秘義務を負える方） 定員：100名

参加費：無料

申し込みは、メールtoyama_hattatsu@aol.comに参加者の氏名・所属・連絡先メールアドレスを記入の上お送り下さい。

参加方法などメールでお知らせいたします。

主催：富山発達障害研究会 [代表：森 昭憲(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)]

後援：富山県、富山県教育委員会